

No.216
2024.7.22

郷土

荘原コミュニティセンター報

令和6年5月31日現在
世帯数.....2,771戸
男 性.....3,625人
女 性.....3,837人
合 計.....7,462人

発行／荘原コミュニティセンター
出雲市美川町荘原3835 (電話)72-4600 (FAX)72-4602

つながる荘原 笑顔の未来
いかそう 人を 歴史を 資源を

5/26
(H)

健康
スポーツ部

大自然を満喫! 緑の世界を堪能しながらしっかり学んだ 大黒山自然観察会

主催 健康スポーツ部 荘原コミセン自主企画事業
共催 荘原小学校 PTA 保体部

講師：佐藤仁志さん(島根大学非常勤講師、樹木医、前日本野鳥の会副会長)

若葉が初夏の日差しに輝き、清々しい青空のもと、集合場所の「みはらし本陣」には、大人と子どもたち総勢90名を超える参加者の皆さんが集まりました。

登山道中の樹木を見ながら、準備していただいた資料を使い、自然観察指導員の佐藤仁志先生の説明を聞きながら、みんなでゆっくり登っていきます。

真竹と孟宗竹の見分け方や、歯でかみつぶすと粘りが出る「タブノキ」の葉は、線香に使われていたことなど、クイズ方式で先生に教えていただきながら山頂を目指しました。

約2時間かけて登頂すると、そこにはアゲハ蝶が乱舞し、私たちを出迎えてくれました。まず「兵主神社」に参拝し、眼下に広がる斐川平野の絶景と涼しい風と晴れた空にほっと一息つきました。その後、大黒山に植生するものを使って、笛を作ったり、紙の原料で繊維が強く紐にもなる植物「ガンビ」を使ってミサンガを作ったりして楽しい時間を過ごしました。参加された皆さんも、心地よい汗をかき、自然との触れあいを楽しむことができました。

荘原の山といえば「大黒山」というくらい皆さんに親しまれている山の一つです。この日もたくさんの登山客のみなさんに会いました。大黒山に登られる時はぜひ、先生や地元の有志の皆さんによって作られ木々に取り付けられた「木名板」を探しながら、自然にふれながらゆっくり登って地元の良さを感じてみてください。

詳しく丁寧に指導いただいた佐藤先生、どうもありがとうございました。



5/18
(土)

いらっしやいませ!

澄み渡る青空に

▽ こども店員さんの元気な声が響きました

自主企画事業
共催 荘原地区青少年育成協議会

こどもマルシェ
Children's Marche

地元で出店しておられるお店の方に「こどもマルシェ」に出店いただき、荘原小学校5・6年生と斐川東中の生徒の有志の皆さんがそのお店のこども店員さんとして活躍しました。

折しも「斐川バラのオープンガーデン」が開催中で、荘原コミセンのバラの鑑賞や、荘原コミセン女性部開催の「喫茶やまももオープンカフェ」に来られたお客さんもあり、500人を超えるにぎやかなマルシェとなりました。

最初のころは緊張した様子の子ども店員さんでしたが、時間がたつにつれ緊張もほぐれ、お店の宣伝や品物売るために大きな声を出して会場を回ったり、お店のディスプレイを考えたりと、お店の人やお客さんにどうしたら喜んでもらえるか子どもたちなりに一生懸命考えておもてなしをし、会場はとても活気に溢れました。



「こどもマルシェ」を通して、普段はなかなか体験できない仕事をするの大変さを感じたり、お客さんやお店の人との温かな交流を通して、地域のよさを感じられるよい時間となりました。

地域の子どもたちのために出店くださった皆さん、ボランティアの皆さん、温かくこども店員さんを見守ってくださった皆さん、ありがとうございました。



こども店員さんの感想(抜粋)

- ★最初は緊張したけど、お店の方々とても優しく、お客さんも笑顔でとても楽しかったです。これからボランティアをやりたいと思いました。
- ★将来店員として働くこともあると思うのでいい機会になったと思います。
- ★お店の大変さに気づくことができました。
- ★笑顔で接客するのが大切だと思いました。店員として働くことができて、楽しかったです。
- ★接客が楽しかったです。
- ★値段を把握して接客することは大変でした。
- ★大声を出してたくさん売ることができてよかった。売り切れできなかった品物があつたのは残念だったので、来年も参加したいです。

Et...

クイズラリー 同時開催しました! 自主企画事業

地域の良いところのクイズを荘原小学校の皆さんに考えてもらい、当日は15問のクイズをお客さんに挑戦していただきました。親子で考えたり友達同士で考えたり、ああでもないこうでもないという知恵を出し合ったりして、全問正解を目指して頑張りました。

クイズを考えるだけでなく、出店者さんと「勝つまでジャンケン」をしたりして交流を深めながら、地域の良さを体験しました。



まちづくり部

さつまいもと大豆畑

自主企画事業



この号が発行される頃には、さつまいもも大豆もぐんぐん成長していると思われます。今年も、荏原幼稚園・荏原保育園・東部保育園の3園の皆さんと共に、さつまいもと大豆を育てます。畑を巡り、土に触れる喜び、食べる喜びを地域のこどもに伝えていきます!

こども倶楽部



1
5/7
(水)

ヒトデまき。あの海のヒトデです。天然素材で虫の忌避効果あり。コガネムシさんからさつまいもを守ります。



2
5/13
(月)

うね立て・マルチ張り。荏原幼稚園・東部保育園の先生方と来るさつまいも苗植えの準備をしました。

3
5/22
(水)

こどもたちお待ちかね!! の、さつまいもの苗植えです。大張り切り大盛り上がりで楽しく植えました。植えた後には、たっぷり水をかけて、美味しいさつまいもがたくさん育つよう願いました。

荏原幼稚園・東部保育園のみなさんが描いた可愛い看板が立ててありますので、見てみてくださいね。



大きくなあれ

4
6/10
(月)

草取りと大豆まき。2週間前にはなかった草が急成長!畑作りは草との戦いでもあります。草取りをしてから大豆をまきました。



荏原こども教室

6/15
(土)

子どもニュースポーツクラブ 始まりました



今年度も、元気いっぱい「子どもニュースポーツクラブ」が活動しました。

今回は、スポーツ指導の専門講師さんと「スポーツ吹き矢教室」のサポートスタッフさんに教わりながら、「スポーツ吹き矢」と「ペア・リング・キャッチ」に挑戦しました。

「スポーツ吹き矢」は、初めての子どもは、筒の持ち方や矢の入れ方、姿勢や息の整え方や吹き方など基本を学びながらチャレンジです。継続参加の子どもは、慣れた手つきで「スパッ!」という音と共に気持ちよく当てていきます。「やったー!」「当たった!」と、一言一語しながら楽しみました。

「ペア・リング・キャッチ」はリングを相手に投げてキャッチするのですが、見た目以上に難しく、上手くできてもできなくても、みんなで笑いながらとても楽しむことができました。



6/22
(土)

子どもお花クラブ お花を通して感性を磨きます



荏原小学校の1年生から6年生が参加する「子どもお花クラブ」。6月22日土曜日からたくさんの新しい仲間が加入し、今年度の活動が始まりました。

まず子どもたちは、はじめの大事な一歩である1輪の花を選んで対話をします。そして選んだ花に合う花器を選びます。

2人の講師先生は、花や花器を選んだ理由や、好きなところを子どもたちに発表させながら進められます。また、出来上がった作品は前に並べて鑑賞会を行います。自分の作品を紹介した後は、一人ひとりが持っている「お花ノート」にその日の活動の記録を残します。花の生け方、花器の選び方だけでなく、花や花器と対話する感性も磨きます。

子どもたちは講師の方の話を聞きながら、選んだ花のお気に入りの部分がよく見えるように配置したり、友達の見方や考え方を聞いたりしながら感性を磨いていました。

10月12、13日に開催予定の文化祭の作品展示と、年度末に開催されるミニ展覧会で、地域の方々に作品を見てもらえるようにがんばって取り組んでいます。楽しみにしてください。



6/7
(金)

笹巻き作り 自主企画事業

今年も荘原保育園・東部保育園の子どもたちと一緒に笹巻きを作りました。

かわいい子どもたちのためにと協力して下さった「ふれあい交流部」の部員さん、地域のみなさんのおかげで、今年もたくさんの美味しい笹巻きが完成しました。

笹巻きを作らない家庭が増え、出雲地方の食文化の伝承が途絶えつつあります。ほんのひとときではありましたが、「笹巻き作り」を通して出雲地方の食文化にふれ、子どもたちと楽しく交流することができました。



ふれあい交流部

6/1
(土)

荘原の古きを訪ねて新しきを知る

～フィールドワーク「荘原探検隊」～



まちづくり部

自主企画事業



「荘原は見る影もなく衰えました。しかしそれを嘆いていても始まらない。私たちが、また若い人たちが今を生きる一員として、これからの荘原を住みやすい良いものにしよう努力しようじゃないですか」

そのとおりです。往時の面影がない! あの興隆はどこへ? と嘆くのではなく、行政当局や既存の組織的力も借りながら、新しい力を集められるよう頑張っていきたいと思います。そのための場として、昨年行った「タウンミーティング～どうする荘原」に続き、今秋も老若が集まってワールドカフェを開催する予定です(9月28日(土))。再び大河ドラマの題名をもちります。名付けて「光る荘原へ」。どうぞ、ご参加ください。

荘原コミセンまちづくり部 原 史行

「まちづくり部」主催で、フィールドワーク「荘原探検隊」を行いました。蒸気船の客で賑わった界限(ラフカディオ・ハーンも降り立った)、物流の集積と分散と製造の拠点、旅館や寺や娯楽に人々をいざなった歓楽街、斐伊川の支流として開削された新川(戦前に砂に埋まった)、大水害の歴史など多くを現地で学ぶことができました。

船便が鉄道に取って替わられ、さらに自動車の時代になっていくと、荘原は栄光の座から滑り落ちていきます。往時の賑わいとは異なる今の静けさの中を歩きました。最後に講師の保科晴夫さんが結ばれた言葉が印象に残ります。



7/3
(水)

「Showバラの会」花がら摘み

しょう ばら
Showバラの会



今年、5月11日から5月19日まで「第9回斐川バラのオープンガーデン」が開催され、沢山のお客様が荘原コミセンを訪れ、バラを愛でておられました。バラがこのタイミングに満開を迎えることが出来たのは、3月に「Showバラの会」の皆さんが、冬選定と追肥をしてくださったからこそです。今回は、「花がら摘み」、バラは、花がらを放置すると実をつけようとするのですが、こうして咲き終えた花を摘んでおくと花に栄養が行き渡り、何度も花を楽しむことが出来ます。暑い中作業してくださった「Showバラの会」の皆さん、ありがとうございました！

5/23
(木)

「Showバラの会」視察研修

この日、鳥取県の花回廊をはじめ、様々な庭主さんの庭を訪れる視察研修を行いました。今回の研修は、バラをメインに庭を巡り、その庭を手掛けた皆さんのお話も伺うことが出来ました。それぞれに個性あふれる素敵な庭を堪能させていただき、想いに触れ、とても良い刺激を受けることが出来ました。



素敵な
庭に癒やされ
ました！



女性クラブ
「やまももの会」

5/22
(水)

ゴキブリには、ゴキブリ団子が効果あり

今年もゴキブリが出てくる時期前に「ゴキブリ団子」を作りました。買いに来てくださる方から「これ、本当によく効くのよ」「販売されるのを待ってたわ」など嬉しい言葉をいただきました。年々購入者が増え、販売用にと用意した93袋は数日で完売しました。



6/25
(火)

「生ごみ用ばかし」で生ごみ減量をめざそう！



ごみの減量化について考えたときに自分たちが何をしたらいいのかを考え、今年度は斐川環境学習センターに出かけ、青木住子先生を講師に「生ごみ用ばかし作り」を実施しました。

まず、出雲市のごみ処理の現状を聞きました。出雲市では現在、ごみの処理費に年間18億5000万円が、そのうち燃えるごみが14億8000万円、さらに生ごみが5億円もの金額が使われている……ということに驚きました。

米ぬかやEM液などをひたすら混ぜて、「生ごみ用ばかし」ができました。

6/30
(日)

喫茶やまもも“ハスカフェ” ～「荒神谷古代ハスマつり」に出店～

梅雨空の下で開催された「荒神谷古代ハスマつり」に「ハスカフェ」を出店しました。

古代ハスを見にいらした大勢のみなさんにカフェを通して喜んでいただき「やまももの会」の活動を知ってもらうことができました。

荒神谷でのカフェは初めての試みだったため、不安もありましたが、無事に終えることができ、今後の活動に向けてパワーをいただきました。



1班 5/14 (火)
2班 5/16 (木)
3班 5/24 (金)

「卓球バレー」に挑戦!

ふれあいサロン
おいでませの会



5月の「おいでませの会」は、「卓球バレー」に挑戦しました。「卓球バレー」とは、専用のラケット(長方形の板)を使い、椅子に座ったままできるため、高齢者や障がいのある方でも取り組むことができる新しいスポーツです。日本障がい者スポーツ指導員で「卓球バレー」指導者の資格をお持ちの湯浅子さんに指導していただきました。

時間の経過とともに会員さんもボランティアさんもだんだんとヒートアップ! みんなで笑い合い、楽しい時間を過ごすことができました。



1班 6/11 (火)
2班 6/13 (木)
3班 6/14 (金)

みんなの願いが天まで届きますように...

今年度も荏原小学校1年生の皆さんと一緒に「七夕交流」をしました。

子どもたちの元気な歌や演奏とダンスの後は、みんなで「たなばたさま」の歌を歌い、その後グループごとに分かれて、まずは自己紹介をしました。

後半の時間は、七夕飾りを一緒に作りました。折り紙を折ったり切ったりしながら飾りを作る子ども、ひらがなを教えてもらいながら短冊に願いごとを書く子ども……子どもたちが、「おいでませの会」の会員さんやボランティアさんとおしゃべりしながら過ごす姿は、いつ見ても微笑ましいものです。

みんなの願いが天まで届くことを祈ります。



6/18 (火)

地域小サロン

盛りだくさんの楽しいサロンです!

秋桜サロン

羽根東自治会を中心とした地域のサロン「秋桜サロン」は、毎月第三火曜日に活動しています。

6月のサロンは歯科衛生士の黒田明美さんに「お口の健康について」正しい口腔ケア、オーラルフレイル予防の話聞き、お口の体操を実践しました。後半は、伊藤八恵さんによる「笑いヨガ」をしてみんなで思いきり笑い合い、その後「羽根盆踊り」を参加者全員で踊りました。

最後は、「ボケない小唄」をみんなで歌い、今回も盛りだくさんの内容で元気になるサロンとなりました。



5/28
(火)

子どもの人権を考えます



莊原地区人権・同和教育推進協議会

令和6年度の莊原地区人権・同和教育推進協議会の総会が開催されました。令和5年度の活動報告と決算報告、そして地域の人権啓発のための令和6年度の活動計画案や予算案が承認されました。総会後は委員研修会が開催されました。

今年度の委員研修会は、井上恵理子さんをお迎えして「ヤングケアラーを知ろう! 考えよう!」と題して、元ヤングケアラーだった井上さんにお話しいただきました。

家のお手伝いをすることは立派なことであり、家族として助け合うことは「普通のこと」で、本人も周りも当たり前の事と考えています。子どもは親のことが大切で親が安心してくれるように、いわば子どもが親の気持ちになって、本来大人が担うべき役割を子どもが果たしていきいます。子どもは心身の負担を抱えながらも、誰にも相談できずに自分の本音を隠し心の中に閉じ込めてしまいがち。さらに、子どもゆえに取得する情報も少ないため、自分が「ヤングケアラー」だということに気づかないでいることも大きな問題です。

そんな子どもたちには、安心して心情を吐露できる場の確保、大人に守ってもらえる経験が必要です。大人は、子どもにとって必要なことは何かちゃんと理解すること、体面を気にせず、周りの人に頼る、相談することが大切だということでした。

井上さんの研修のあと、出雲市子ども政策課 子ども家庭相談室 室長 今若真未さんから、出雲市におけるヤングケアラーの生活実態調査についての報告や、支援の方向性についてお話しいただきました。

ヤングケアラーとなってしまった子どもたちが、安心して過ごせるように、そして、子どもが子どもらしく過ごしていけるように、子どもの人権を大人の私たちも気を付け守っていかねばならないと思いました。



5/29
(水)

令和6年度 環境保全連合会莊原支部総会

5月29日(水)に令和6年度の総会を開催しました。莊原支部の環境委員の皆様にお集まりいただきました。皆様には令和6年度の活動計画案および予算案を承認していただき、本年度の活動が本格的に始まりました。皆できれいなまち莊原を目指していきましょう。



6/9
(日)

宍道湖・中海一斉清掃



6月の環境月間にあわせ、鳥根県の行う宍道湖・中海一斉清掃に、出雲市環境保全連合会莊原支部も参加しました。5月29日(水)の総会時に莊原地区の環境委員の皆さんに呼びかけたところ、雨天にもかかわらず、27名の方々に参加していただくことができました。今年は、出雲市役所斐川支所からも2名ご参加いただき、皆で、新田下排水機場を起点にごみを拾いながら歩きました。

終了後、原秀範会長から、参加特典として宍道湖産の「しじみ」を頂戴しました!この取り組みに参加して、宍道湖の周りを綺麗にしてくださいとお願いした皆さん、どうもありがとうございました。



5/16
(木)

総会開催

莊原地区
青少年育成協議会

今年度の青少年育成協議会の総会が開催されました。地域の子どものための活動計画案や予算案が承認されました。また、小学校、中学校の校長先生より児童生徒の現状についてのお話や、莊原小学校PTA会長、斐川東中学校PTA会長による地域の皆さんへの感謝の言葉や今年度の事業計画について、斐川交番所長からは青少年犯罪の実態等についてお話がありました。また、11月16日(土)開催予定の、地域三世交代交流事業について話しました。



5/17
(金)

羽根盆踊り 子ども盆踊り教室に 青少年育成功労者団体として表彰されました



令和6年5月17日(金)鳥根県民会館で、授賞式が行われました。平成18年から、「羽根盆踊り愛好会」のメンバーが中心となって、こどもを対象に講習会を開催、平成20年度文化庁「文化伝承こども教室」事業を機に、地域の文化伝承と郷土愛を育む心及び健全育成を目的に、莊原小学校児童に広く募集し教室を開始し、現在に至っています。長年にわたる活動と功績が称えられ表彰されました。今後の活躍を祈念しております。

各青少年育成協議会代表者会議表彰
おめでとうございます



写真でたどるあの日の荘原

Vol.2

まちづくり部

昭和10年(1935年)7月、野口雨情が湯の川温泉「湯元湯の川」に滞在しました。
滞在中に「湯の川小唄」を作詞しました。

野口雨情は、山懐の温泉情緒に惹かれ、「声も長閑に 山麓を湯治しながら 寝て聞く」と詠いました。これを基にして一連の「湯の川音頭」ができ、その詩に坂本歌郎子が情緒豊かに曲付けして、当時の芸妓の三味線に合わせて盛んに唄われ、そして今日も唄い続けられています。



▲野口雨情を囲んで荘原村の小村吉蔵村長、助役などによる記念撮影

野口雨情は、言うまでもなく日本を代表する詩人・童謡作家で、「赤い靴」「しゃぼん玉」「七つの子」など数多くの作品を残しています。



▲野口雨情が、湯の川温泉滞在中に書いた作品
写真提供者の和田守良則さんの祖父、和田守清太郎さんが荘原村の助役でした。
「南風吹け雲の巻に河原柳の影法師」と書かれています。

荘原コミュニティセンター「まちづくり部」では、引き継ぎ皆様から懐かしい荘原の写真などの歴史資料を募集しています。ご自宅に懐かしい写真などありましたら、荘原コミュニティセンターまでご持参ください。

ありがとうございます



寿昌クラブ荘和会様 タオルのご寄附

「荘和会」の皆様から、沢山のタオルを頂きました。大切に使用させていただきます。
ありがとうございました。

7/4
(木)

荘原コミセン 自衛消防訓練の実施

荘原コミセンを利用される皆さんの安全確保と職員のスムーズな避難誘導ができることを目的に、定期的に避難訓練を行っています。
この日、「実習室」から出火したと想定し消防訓練を行いました。避難後には、消火器の使い方を消防用設備点検業者の方の指導の下実際に消火器を使って放水の仕方を学びました。訓練の内容を反省し、いざという時に役に立てていきたいと思ひます。



ご寄付御礼

香典返し 金一封

池淵純子様(宮多自治会)
周藤 浩様(北筋自治会)
須田裕史様(幸町自治会)
福岡昭夫様(新田下自治会)
原 昇様(綿田原自治会)
原 邦江様(八雲南自治会)
他匿名でのご寄付

皆様からお寄せいただきましたお志は、荘原地区内の社会福祉事業に活用させていただきます。誠にありがとうございます。
ご寄付は随時、荘原コミュニティセンターで受け付けております。